1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071100939		
法人名	有限会社 めぐみ		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	〒811-1355 福岡県福岡市南区桧原1丁目17番16号 TEL 092-554-7633		
自己評価作成日	令和05年01月15日	評価結果確定日	令和05年03月09日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の一角にあり、裏庭には、季節の楽しめる花や木を植えており、昭和を思わせるたたずまいで、家庭的な雰囲気が醸し出し、家族のように暮らしていく場所として支援しています。他施設で入居困難な医療ニーズの高い方も受け入れ、かかりつけの医師、看護師と連携し、早期の適切な医療が提供できるよう支援に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症高齢者が、重度化しても慣れ親しんだ地域の中で最期まで安心して暮らせる事業所として、21年前に開設した定員9名のグループホームである。コロナ対策以前は、利用者と職員が地域の一員として、町内の清掃活動や公民館の茶話会に参加し、地域との交流も活発に行ってきた。協力医療機関の医師と看護師、ホームの常勤看護師、介護職員との連携で24時間利用者の健康管理を行い、安心の医療体制が整い、多くの看取りを行っている。重度化が進んでも楽しい暮らしを心掛け、人柄の良い職員との会話、レクリエーションの充実を図り、利用者の溢れる笑いが、長い入居年数に繋がっている。近隣事業所と立ち上げた「西花畑まもり隊」の一員として、地域の課題や相談、依頼への対応も始まり、地域福祉の拠点として期待されている、グループホーム「めぐみ」である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和05年02月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新法人理念を作り1年となりました。毎朝、全員で法人理念の唱和をし、共有することで、自分たちのケアにずれがないか話し合っています。そのひとつ暮らしさせていけるよう取り組んでいます。	法人理念を、玄関、事務所等、見やすい場所に掲示し、毎日の朝礼時に出勤職員で唱和し、「すべては利用者のために」のスローガンの下、理念の共有に努めている。職員は介護に迷ったり悩んだ時には理念を振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として町内の総会、清掃に参加し、他事業所と立ち上げた西花畑まもりたいでも地域の方々の困りや相談に答えたり、地域の催し物の参加もしてる。	町内会に加入し、総会や清掃活動に参加している。隣近所の方への挨拶、ボランティアの受け入れ、公民館で行われている茶話会に利用者に参加する等、地域の方との交流に努めている。地域ケア会議に参加して、地域の為に出来ることを検討しているが、現在はコロナ禍で休止状態である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災時の呼びかけや、町内行事の参加、地域ケア会議に参加し、情報交換、意見交換しながらサービス向上に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。グループホーム内の取り組みや、ヒヤリハット、事故報告書などの事例など報告し、地域との繋がりがもてる意見交換を行っている。	運営推進会議は、民生委員や町内会会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て2ヶ月毎に開催していたが、現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止している。ホーム運営や取り組み、入居状況、行事等、サービス提供の報告書を作成し、電話等で情報交換を行い、質問や意見を聴き取り、サービスの向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加。包括支援センター、区役所、医療関係、西花畑まもりたいと情報交換を行い、ご意見をいただいている。市町村や、他施設からの問い合わせにも対応している。	ホームの空き状況や事故等を行政担当窓口へ報告し、介護の疑問点や困難事例について相談する等、連携を図っている。地域包括支援センターとのやり取りも多く、日頃から協力関係を築いている。また、生活保護課とも密に連絡を取り合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の2つのグループホーム合同で身体拘束の勉強会を年2回実施。3か月に1回の身体拘束適正化検討委員会の開催。 身体拘束の事例はない。	毎年2回、身体拘束の法人内研修を実施し、身体拘束適正化委員会を法人内事業所で行い、内容を職員に周知している。禁止の対象となる具体的な行為について、正しい理解と意識づけを行い、身体拘束をしない、させないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1～2回の勉強会を実施し、高齢者虐待防止委員会を3か月に1回開催。 職員全体が意識を高め、日常的に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回事業所の勉強会と外部研修参加をしている。 また、地域包括、民生委員、司法書士等の説明を受け、活用できるようにしている。	権利擁護の制度を活用している利用者があるため、後見人とのやり取りを通して、制度に関する理解を深めている。また、後見人である司法書士による勉強会を実施する等、学ぶ機会を設け、必要時には、制度の内容について家族に説明し、申請に向けた支援が出来る体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	紹介、問い合わせがあった際、自宅、入院先を訪問し、家族や、ケアマネ、看護師等から情報交換を行い、契約時は細やかな説明をし同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月近況報告を家族にお手紙として郵送している。 来訪時やお電話の際、家族の希望を伺い、プランに反映している。	ホームでの日常生活の中から、職員は利用者の意見や要望を聴き取り、現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、面会を制限しているが、電話等で家族に、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や日常介護に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンス、勉強会時に意見交換をしている。 改善してほしいところなど運営側に伝えている。	職員会議の中で、カンファレンスを毎月開催し、何でも言い合える雰囲気の中で、活発な意見交換が行われている。「カイゼン活動」を通して、職員の気づきを引き出し、一つひとつ小さなことから意見を出し合って改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の案内や参加、資格取得を促し、給料基準の改善を行っている。休みの希望や、有給など取りやすい環境をつくり、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別に関係なく個人のあった能力を生かし知識・技術を生かし取り込める雰囲気づくりに努めている。 研修の案内があった際には伝達、提示し、促し、職員のスキルアップを目指している。	職員の募集は、年齢や性別、資格等制限せず、チームワークを大切に、働きやすい職場を目指している。職員一人ひとりの個性や特技を活かした役割分担を行い、職員が生き生きと働けるよう配慮している。今年度は、外部研修が中止になることが多かったので、法人内研修で学ぶ機会を設け、スキルアップに繋げている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法令順守や高齢者虐待・身体拘束研修を行い、朝礼では 法人理念唱和、職場の教養朗読を行っている。	利用者の人権を守る介護の在り方を、研修会やカンファレンスの中で、常に話し合っている。利用者一人ひとりの個性や生活習慣を大切に、職員間で情報を共有しながら、言葉かけや対応に配慮し、利用者がその人らしく生活できる介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会の参加、外部研修での伝達、講習などのスキルアップを図り、職員の質の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内会の集会、地域ケア会議、西花畑みまもり隊の会議などで情報収集や意見交換をし、サービス向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心した生活が送れるように、不安や、困難事項を早期に対応し、ご家族や関係者と情報交換を密に行い、利用者様のニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、自宅や入院先を訪問し、利用者様、ご家族の方の意見を十分に聞き、ニーズを引き出す努力をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で現況と家族、本人の意向を十分に把握し、医療機関、他の専門機関等の意見も参考にし、支援とサービスを取り入れている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分で出来ることは可能な限り本人にして頂き、出来ないことはサポートし、ご本人をサポート出来る関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が安心して生活できるよう家族近況報告をし、時には家族の協力を得て、ご本人のサポートができる関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のこれまでの生活歴を傾聴し、家族、友人・知人等の電話、面会は可能なことをお伝えし、関係が途切れないよう支援に努めています。	コロナ対策以前は、友人、知人、家族の面会も多く、居室でゆっくり話ができるように配慮し、楽しい時間を過ごしてもらっていた。親戚の集まりに職員が同行して参加したり、家族の協力を得て墓参りや地域の茶話会への参加等、馴染みの関係がホーム入居で途切れないように支援していたが、現在は面会や行事も制限している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、リビングで食事、体操やレクリエーションで、利用者様同士の間関係が円滑になるように職員が見守り、関わり合い支え合えるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、利用者ご家族や関係者が立ち寄って下さったり、お電話をいただいています。必要に応じ、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や思いをを傾聴し、生活リズムや行動を把握して、職員間で情報を共有し話し合い本人の意向に添えるように努めている。	職員は、日々の暮らしの中の会話から、利用者の思いや意向、心配な事を聞き取り、家族に相談して、介護サービスに反映させている。意向表出が難しい利用者には、職員間で話し合い、職員が利用者に寄り添い、表情や仕草を観察しながら、利用者の思いや意向に近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の時代背景や、これまで暮らしてきた環境、家族背景をご家族様の話や、ご本人様の言動から把握し、生活環境を整え安心して、その方らしい生活ができるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態を把握し、その度に職員間で情報共有し、把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、運営推進会議、カンファレンス等で観察、報告、連絡、相談しながら、その時々に応じた介護計画を作成している。	コロナ禍の中で、面会時や電話等で家族の意見や要望を聞き取り、カンファレンスの中で検討し、利用者本位の介護計画を3~6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の内容、サービス記録の内容の実践・取り組み気づき等を記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気を大切にし、利用者様が気兼ねなく何でも話せる雰囲気作りをしています。一人ひとりに合ったサービスの提供を心掛け、可能な限り柔軟性をもって希望に沿ったサービス提供できるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や近くのお店で買い物への参加、その人らしく安全で豊かな暮らし、生きがいを持っていただけるよう努めていますが、コロナの影響等で出来なかった。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築き、1か月2回の定期的な往診を受けています。急変や緊急時にも主治医と協力体制を取り、早期の適切な医療が提供できるよう、医療連携に取り組んでいる。	入居時に、利用者や家族の希望を優先して、主治医を選択して貰い、ほとんどの利用者が、月2回の往診体制が整っている協力医療機関を主治医としている。夜勤を含め、多くの看護師を配置し、主治医と連携しながら、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の異常や急変時は管理者か看護師に報告するように徹底しています。報告を受けたら主治医に報告し、指示を受け利用者様が適切な受診、看護を受けられるように対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時は、安心して治療に専念できるように家族・病院関係者と密に情報交換をして、早期退院ができるように常に病院関係者との関係作りに取り組んでいます。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人・家族を含めて、重度化や終末期について説明し、重度化の場合かかりつけの医師・看護師による対応と、終末期、危篤時には家族と協議し、かかりつけ医と連携し方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針について契約時に説明し、利用者や家族の希望を聴き取っている。利用者の重度化が進むと、家族と常に連絡を取りながら、主治医、看護師、介護職員が連携し、情報を共有しながら、利用者が安心して終末期を過ごすことのできるよう、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時や、事故発生時には、マニュアルによる対応と、医師、看護師による実施教育と医療機関への迅速な連携を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練や地域の防災訓練に参加し、マニュアルに沿って訓練している。	夜間想定避難訓練を年2回実施している。地域の防災訓練に参加し、地域との相互協力体制を築いている。防災用ヘルメットを利用者全員分用意し、非常災害時を想定して、非常食、飲料水、非常用備品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個性や人格を尊重し、プライド、プライバシーを損なわれない言葉かけや対応を行っている。	研修会や職員会議の中で、利用者一人ひとりのプライバシーを守る介護の在り方について、職員間で話し合い、常に意識づけを行い、利用者の個性や生活習慣に配慮した言葉遣いや対応の支援を行っている。入室時には必ずノックをする事を徹底し、脱衣所が狭いため、カーテンを利用してスペースを確保する等、工夫しながら対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気兼ねせず、希望や思いを発言できるよう働きかけ、自己決定ができるよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの体調・気分を把握し、その日、どのように暮らしたいか本人の希望に沿った支援を心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、本人の好む服装や、身だしなみ、おしゃれができるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の体調・状態に合わせ、調理法や、食事形態を変えたり、季節感を感じた食事になるように工夫しています。レトルト食に変更になりましたが、食器の後片付けなど、できる方には職員と一緒にやっている。	利用者の嗜好を聞きながら、職員手作りの料理を、利用者と職員と一緒に同じものを食べる家庭的な食事の在り方を大切にしていたが、レトルト配食サービスに変更となっている。行事や誕生日には、特別の料理を提供し、年に1、2回の外出に出かけ、食べることを楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが食べる量、水分を把握し、1日を通じて確保し、体調管理に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月4回の訪問歯科に加え、毎食後の口腔ケアを実施している。口腔ケア時は声掛け、一部介助で行い、できない方は職員が介助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄できる方の見守りと介助が必要な方の排泄パターンを把握し、個々の能力に応じた排泄援助をおこなっている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、早めの声掛けや誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間帯は利用者の希望を聞きながら、トイレ誘導や、ポータブルトイレを利用する等、安全に配慮して、オムツ使用の軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対応を行っています。食物繊維を多く含む食料を提供したり、水分摂取に心がけています。主治医指示のもと下剤や、座薬等で調整しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様本位で入浴への声掛けや、本人の希望に合わせて入浴支援を行っています。	利用者の希望や体調に配慮して入浴支援に取り組み、週2回を基本としてゆっくり湯船に浸かってもらい、職員と会話しながら楽しい入浴が出来るように取り組んでいる。また、入浴を拒む利用者には、時間をずらして声掛けしたり、清拭や足浴に変更し、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の睡眠状態を観察・把握して、状況に応じて寝具調整、衣類・室温調整を行い、良眠できるよう支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・用量を理解し、症状の変化に気を配り医療機関、薬局との連携を基に常に医師との協力を仰ぎ服薬支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や誕生日会への参加、体操やうた、テレビ鑑賞など本人に合わせ過ごしていただき、家事ができる方には役割を持ってもらい、職員と一緒にいき、信頼関係を構築しています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	希望があれば、職員付添での買い物や、散歩、季節の行事などの支援をしています。ご家族の希望があれば、外出、外泊支援も行っています。	コロナ対策以前は、利用者が重度化しても、美しいものを見ることは大切な事と考え、季節の花見には出来るだけ出かけていた。現在、人混みへの外出は控えているが、庭に出ての外気浴や近隣の散歩に出かける等、利用者の気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関してはご家族・後見人をお願いしております。利用者様の希望があれば、後請求で買い物など行っています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方へ電話連絡等は本人の希望に応じ、いつでも電話できるよう支援しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング横には台所があり、調理時にはおいしそうな匂いが漂います。観葉植物の配置や季節を感じられるような物品の配置を行い居心地よく過ごせるように努めています。裏庭には季節の花や木があり、自分の家を思わせるような雰囲気を作っております。	民家改造型の限られたスペースを、職員の創意工夫によって、安全に、少しでも心地よく過ごせるように整えている。裏にある日本庭園の梅や桜を眺めたり、プランターに花を植える等、季節を感じながら、自宅のように暮らせるアットホームな共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家改装ホームのため、区間の確保が難しいですが、リビングに集まり、レクリエーションや体操・テレビ鑑賞・カラオケなど行い、自由に居心地よく過ごせるように努めています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、ご家族の協力を得てご本人が使っていたものを持って来て頂き、住み慣れた雰囲気作りを工夫しています。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が使い慣れた家具や寝具、位牌や家族の写真等を持ち込んでもらい、その人らしい部屋作りを心掛け、利用者が安心して過ごせるように支援している。また、利用者の状態によっては、部屋替えをお願いする等して、安心、安全に過ごしてもらえるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ居室には危ないものは置かず、残存能力を生かし、できることは自分でもっとうに、過激な介護はしないように職員全体でミーティングを行い、統一した介護を心がけています。		